

校長メッセージ 講話より N05 平成29年10月31日

題「自分は変えられる」有名人3人の生い立ちから考える。

困難な境遇やマイナス面の性格も、あるきっかけで変えることができることを知り、自分のこれからの生活に希望をもてるようになることを期待する。

「講話の概略」

現在芸能界で活躍している3名の有名人を取り上げ、それぞれ違った困難さがあったこと、それをあるきっかけでよい方向に変え、活躍している姿を知り、可能性は無限、性格は変えられることを伝える。

○パワーポイントをもとに話をすすめる。

今日のお話は、自分の人生を変えた3人の芸能人のお話です。皆さんがよく知っている人を選びましたが、他にも苦労した人、辛い思いを経験してきた人はいっぱいいます。

一人目は、AKBの渡辺麻友さん、2人目は、明石家さんまさん。3人目は、千原ジュニアさんです。一人目の渡辺麻友さんからしたいと思います。小さいころから内気な性格で友達も少なく幼稚園も休みがち。小学校に入学しても変わらず、一人でよく絵を描いていた。やっと3年生で、仲良しグループができたが、そのグループから仲間はずれなどの「いじめ」を受けてしまう。4年生でクラス替え、だがその結果一人ぼっちに。遊ぶ友達もいないので代り勉強をいっぱいした。絵と勉強は自信があった。しかし、6年生の時期は引きこもりに近く、ネットやイラストを描くことばかりしていて家族ともほとんど口をきかずに生活していた。ネットにはまり、そのネットでAKBを知り、オーディション受けることに。初めは反対していた母も、それで娘が外に出て活発な子になればと思い、賛成した。学校では辛いことばかりだったようだが、「オタク」と言われても好きな絵を描くことで、自分の心を救ったのだと思います。

次に「明石家さんま」さんお話します。3歳の頃に実のお母さんが病気のため亡くなってしまい、小学校高学年になった頃に父が再婚する。新しいお母にも子どもがいて「さんま」さんに、年の離れた弟ができ、年の離れた弟を”チビ”と呼んでとても可愛がり、弟もよくなついていた。

新しいお母は、「さんま」さんのことを無視し続ける。義母が、近所の人に「うちの子は自分の生んだ子だけで、あの子はうちの子でない」と話していたのを聞いてしまい、すごくショックを受ける。でもそんな事にいつまでもめげていないで、自分を無視する義母をいつか何とか笑わせて、自分のことを認めてもらおうと、無視され続けても続けてもそれでも話しかけ続けた結果、話が上手になり、お笑いの世界で、認めてもらえるようになっていく。義母にかわいがってもらえなかったことはとても寂しく、辛かったと思われるが、このような辛く寂しい経験があるから、人を明るく笑顔にしたいという気持ちはずっともち続けていられるのかも知れない。よく「生きてるだけで丸儲け」という言葉を使うが、この言葉を聞いて皆さんはどのように感じるでしょうか。娘さんの名前は「いまる」といいます。

3人目千原ジュニアさんのお話です。小学校時代は「悪がき」として目を付けられていたらしく、「ジュニア」さんが友達の家遊びに行くと、友達のお母さんから「息子はいない」と追い返されたり、「まだあんな子と遊んでんのか」と友達が怒られているのを聞いたりなど、辛い小学校時代だったようだ。

そんな周りを見返すつもりで猛勉強し、地元で有名な私立の中高一貫校に入学する。でも、その学校に入ることに目的だったために、入学した途端やる気がなくなり、学校に行かなくなる。たまに行ったとしても誰とも話さず一人ぼっち、時には暴力を振るうこともあったようだ。

学校になじめず中学2年で引きこもりに。高校生も行く意味がないと、制服を川に投げ捨て、2か月で止めてしまう。そんな時、兄の「せいじ」さんから「何もしていないんだったら吉本に來い」と誘われる。その「せいじ」さんから「明日までにネタつくって來い」と言われ、何もわからないまま作り、翌日みんなの前でそのネタをやってみると、大爆笑になり、生まれて初めての感動を味わう。その時の事を、「体中に電気が走ったようだ」と話している。その時「俺にはこれしかない、この世界でがんばって行く」と決意を固める。3人の有名人のお話をしました。みんな人生を変えるきっかけがありました。皆さんも何がきっかけになるか分かりません。皆さんの可能性は無限です。それに性格は変えられます。

これで校長先生のお話を終わりにします。